

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

目標値:国語A・国語B・・・103以上、算数A・算数B・・・104以上)

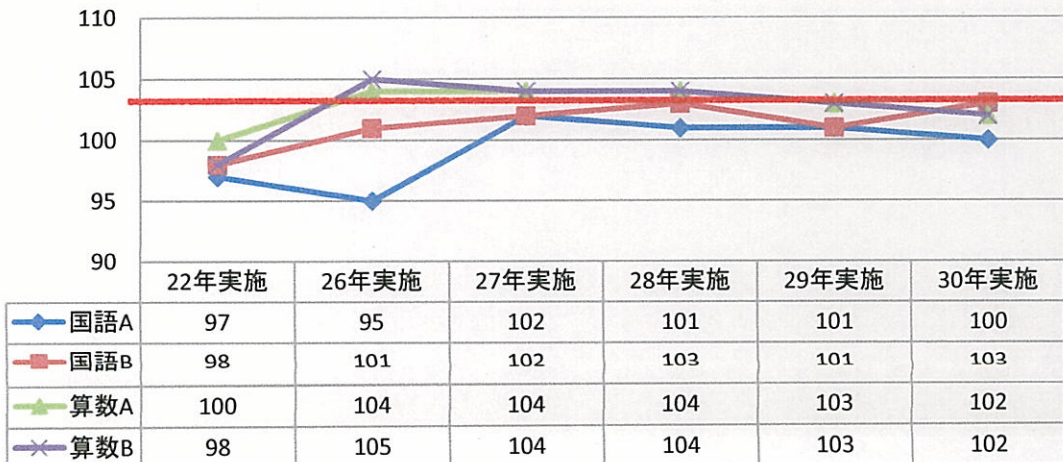
3.指標に向けての取組

・主体的な学習を目指す授業改善(子どもの課題追求・自力問題解決・自己決定の場づくり・学びのふりかえり)に取り組む。
 ・全教科で、自分の考えを書いて整理する場面を設定する。
 ・国語科で、説明文を中心とした「読むこと」の指導を通して、文章を正確に読み、自分の考えを表現する活動に取り組む。

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語A	国語B	算数A	算数B
本校	100	103	102	102
嘉麻市	97	99	97	98
全国	100	100	100	100

推移



5.各学校における分析

- ・課題である読解力を伸ばすために、昨年度、課題に対応した研究主題を設定し、主題研究・授業改善に取り組んだ結果、国語Bの結果に伸びがみられた。
- ・国語Bは、目標値に達することができたが、国語A・算数A・算数Bは目標値に達することができなかった。
- ・国語は、「文の中における主語と述語との関係などに注意して文を正しく書くこと」と「目的や必要に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くこと」に課題がある。
- ・算数は、「小数の除法の意味について理解すること」と「円周率の意味・直径の長さや円周の長さの関係について理解すること」に課題がある。（「図形」領域の正答率が低い。）
- ・国語、算数ともに、条件を満たして記述で解答することができていない。

6.各学校における今後の取組

- ・学力の個人差が大きいので、国語科においては1～3年生、算数科においては全学年複数体制で指導を行う。
- ・算数科において重点単元を選定し、単元終末段階で習熟度別学習を行い、学習内容の定着を図る。
- ・モジュール学習（毎日15分間）において、視写活動、読解プリント・言語プリント・計算プリントに取り組み、基礎基本の定着を図る。
- ・週末課題においては、児童の実態に応じた個別課題プリントに取り組ませる。
- ・県から配付された補充問題集（フォローアップシート）やアシストシートを積極的に活用する。
- ・上学年は、土曜未来塾と連携し補充学習を充実させ、下学年は、放課後学習を活用し基礎・基本の定着を図る。
- ・正答率の低かった問題の趣旨、改善策などの共有化を図り、教員の意識・指導力の向上に努める。

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- 嘉麻市学力向上推進プランに基づき、学力向上検証改善委員会を核として学力向上具体策の浸透・徹底を図る。
- 嘉麻市教育アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想、各学校学力向上プランの関連を明確にし、具体策を全ての学級に浸透させる。
 - 短期検証改善サイクルの実施状況を把握し、好循環に向かうよう適時性のある指導を継続する。
 - 学力向上プランの実効性を高めるための指導助言を行うとともに、各学校における効果的な実践の普及に努める。
 - 指導と評価の一体化を図り、特に単元終末段階における習熟度別学習の充実を支援する。
 - 繰り返しの指導が計画的に実施されるよう、カリキュラムマネジメントを推進する。
 - 家庭学習の個別化を推進するとともに、取組に具体的な指標をもたせ、進捗状況を把握し支援を行う。
 - 主幹教諭研修会を小中別分科会とし、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。